

# チェルノブイリ通信

2009年1月20日

No. 75

発行 NPO法人 チェルノブイリ医療支援ネットワーク

連絡先 福岡県古賀市駅東2-6-26 パステル館203号

TEL・FAX 092-944-3841

E-mail jim@cher9.to

ホームページ <http://www.cher9.to/>

郵便振込口座 01770-1-65328

NPO法人 チェルノブイリ医療支援ネットワーク

チェルノブイリ医療支援ネットワークは、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、現地から求められる医療支援を行います。

この活動を通して、日本とベラルーシの人々の心と心のつながりを深めます。



「のぞみ21」で働くオレイシャとイーゴリ。ハンディを乗り越えて結ばれた若い二人に、今年新しい家族が増えた

## 特集:第8回プレスト検診団帰国報告

検診団派遣を終えて  
～第三世代の医師育成と新たな展開～

プレストでの甲状腺ガン検診に参加して  
～細胞診の現場から～

被災地での検診に参加して感じたもの  
～研修医と学生の視点から～

被災地での乳ガン検診  
まずは第一歩前進へ

追悼 ステパンさん  
のぞみ21との交流を通して

学生インターン報告

事務局日誌より 主な活動報告

事務局へようこそ!

会員さん紹介コーナー

募金者のお名前とメッセージ

## 特集

# 第8回ブレस्त検診団帰国報告

## ―第三世代の医師育成と新たな展開―

報告／チエルノブイリ医療支援ネットワーク



①第8回ブレस्त検診団メンバーと現地関係者。後列左から清水医師、アリョーシヤ、野宗医師、武市医師、アルツール医師、ブレस्त州立内分泌診療所長、山口、ウラジミール医師、フレスト州立内分泌診療所、前列左から大内さん、篠塚医師



②検診風景。現地医師が育成されつつある。③取り出した甲状腺細胞を試薬で染色する。④昨年届けた日本からの募金によって購入された遠心分離機。ブレस्त内分泌診療所での検診に非常に役立っている。⑤病院内の様子。州立病院だが、医療機材や試薬などは日本に比べると不足している。

### 《今回届けた主な支援物資・カンパと支援先》

- ピテフスク州立内分泌診療所  
支援物資(カプラー&ニードルガイド)
- ベラルーシ赤十字  
雪だるま2号維持費 \$1,500
- ミンスク10番病院  
医療物資購入費 \$1,000
- ブレस्त州立内分泌診療所、州立病院  
医療支援物資購入費 \$2,000  
医療支援物資(医療器具(消耗品)・検査用試薬など)  
ニコン顕微鏡デジタルカメラ  
(現地修理が不可能だったため昨年持ち帰り、日本で修理した)
- のぞみ21  
運営支援カンパ \$2,220  
雑貨運送費 \$408
- コンフィデンス  
運営支援カンパ \$900

※支援物資購入費を届ける場合は、事前に現地から購入希望物資とその使用目的、見積りを受け取り、購入費受け渡し後には、購入と使用状況の確認を行っている。なお運搬コスト等の面から、現在医療支援ネットワークでは、現地で購入できるものについては、できるだけ現地調達を進めている。

2008年10月5日〜16日の12日間、ベラルーシ共和国へ第8回ブレस्त検診団を派遣した。専門家として、清水一雄医師(日本医科大学教授)、村瀬幸宏臨床検査技師(同病理部)、武市宣雄医師(広島甲状腺クリニック院長)、野宗義博医師(済生会広島病院)、篠塚恵理子医師(日本医科大学付属病院研修医)、大内崇弘さん(日本医科大学4年生)、医療通訳・コーディネーターとして山田英雄さん、スタッフとして山口英文(医療支援ネットワーク理事)が参加し

た。日程の都合で専門家の方々に先に帰国していただき、コーディネーターとスタッフ2名で更に2日間滞在し、追加の調査や打合せ、取材を行った。成田からモスクワ経由で片道2日間。チエルノブイリ医療支援ネットワークとしては28回目の訪問となった。今回の検診団派遣での成果や今後の課題について、それぞれのテーマごとに支援者の皆さまへご報告したい。

## 甲状腺ガン検診を53人に実施

10月8日～10日、プレスト州立内分泌診療所において、現地医療機関との合同甲状腺ガン検診を行った。

検診を受けた患者は53名。赤十字の移動検診チームが職場や地域で実施している集団検診で、甲状腺に異常が見つかった方たちだ。

今年の検診では、アルツール医師らから検診技術を教わった現地の若い医師らも参加し、また滞在中に全患者の診断結果を出すことができた。現地医師のエコーや吸引穿刺についての技術は、かなり向上している。一方、穿刺吸引した甲状腺の細胞を染色、検鏡して診断する臨床検査技師が不足している。次のステップとして、細胞を見ることができるといえる人材を育てていくことが必要となる。

広島や長崎と同じように、チェルノブイリ原発事故から長く時間がたってから、ガンや病気になる人々も出てくると予想される。一人でも多くの命を救うため、試行錯誤しつつ、最大限の成果を挙げていきたい。プレストでの検診体制確立まであと少し。今回の結果を今後活かしたい。



## 10年分の検診患者の症例を確認

1997年プレスト州ストーリー地区中央病院の一室から始まった、日本、ベラルーシの合同検診。11年目を迎えた今回は、過去10年間の検診結果のとりまとめという大仕事に着手している。



武市医師（広島甲状腺クリニック）をリーダーに、チェルノブイリの放射能が甲状腺にどのような影響を与えているのかを、数百枚の甲状腺細胞のプレパラートの結果を元にとりまとめるものである。ストーリー、プレスト、ピテフスクの3地区で吸引穿刺を行った患者のプレパラートは、検診結果を患者に伝えた後、プレスト州立内分泌診療所に保管されている。総合的な診断を行うためだ。今回の検診では、病院の一室を借り、武市医師、野宗医師のお二人が、4日間をかけてすべてのプレパラートを確認された。

単発の検診実施だけではなく、数年間のプロジェクトとして位置づけ、データを蓄積することで、将来の患者の治療に役立つ総合的な診断結果を出すことができる。これまでの取り組みを早くにまとめ、世界へ向けての共通財産としたい。

## 乳ガンの講義実施と情報交換

当初の予定では、甲状腺ガン検診を受けに来た患者さんの中から、希望者を募り、乳ガン検診を行う予定だった。しかし、過去の全患者のプレパラートを確認する作業に



人手が足りず、また今回を逃すと全プレパラートの確認は難しいという事情から、今回は一般患者への乳ガン検診をやむなく見送った。代わりに、現地専門医への乳ガンレクチャーの実施、検診設備の確認、関係者ヒアリングを行った。

レクチャーは、検診終了後の夕方を利用して2日間、プレスト州立病院にて行った。野宗医師（済生会広島病院）より、乳ガン検診を取り巻く現状や詳細な症例について、スライドを多く交えて説明いただいた。

また今回は、乳ガン検診を行うための機材や設備の確認を再度綿密に行った。詳細は野宗医師の報告をご覧ください。いくつかの追加機材をそろえれば、問題なく乳ガン検診も実施できることを確認した。今回の派遣を通して、今後の実施へ

向けての、設備確認や現地医師との意識の共有など、具体的な基礎を築くことができた。

今、乳ガンは世界的に増加傾向にあると言われている。甲状腺ガン、乳ガン発症には女性ホルモンが深く関係し、子どもの頃に被曝した女性が妊娠、出産を迎えている現在、甲状腺の検診とともに乳ガン検診が将来的に重要になってくる。

乳ガンは、自分で発見することのできる数少ないガンである。今回、日本では一般に周知されつつある自己触診診断法をイラスト付きで説明したチェックシートも、野宗医師に持参していただいた。プレスト州立病院やベラルーシ赤十字などでも紹介したところ、大変興味深いと歓迎された。現地では、乳ガン検診に対する期待が高まっている。今後も継続して取り組みたい。



レクチャーを真剣に聞く現地医師

## アリョーシャの予後を確認



アリョーシャと清水医師

今回のプレストでの検診では、07年2月に日本で甲状腺手術を受けたアリョーシャ・スベヤトーシクに再会した。

アリョーシャは、06年の私たちの検診で甲状腺に9mmの腫瘍が見つかり、翌年春に日本医科大学の招待で来日。清水医師による内視鏡手術を受けた。22歳の彼女は、母親が妊娠3ヶ月の時に原発事故が起こり、チェルノブイリから約240キロ離れたピンスクで、胎内被曝した一人だ。

再会したアリョーシャは、清水医師と私たちをとびきりの笑顔で迎えてくれた。経過は順調と話し元気な様子で、診察した清水医師もほっと安心されていた。手術跡もほとんど目立たなかった。プレストからの帰りには、農村地帯にある自宅に私たちを招待してくれ、両親や家族から手作りのもてなしを受けた。被災者の多くは彼女のように農村地帯に住み、「いつか自分も病気になるのではないか」という不安の中、暮らしている。アリョーシャの健康と、回復が早く傷跡もほとんど残らない内視鏡手術が現地でも広がることを願う。

## 工房「のぞみ21」訪問

10月12日～13日、ベラルーシ南東部ゴメリ市にある福祉工房「のぞみ21」を訪ねた。



ナターシャさん(中央)

08年8月、熊蜂に刺されたことによるショック死で、夫のステパンさんを亡くして以来の再会。ナターシャさんは「3ヶ月経った今でも、ステパンのことを思い出して悲しいの」と涙を拭いていた。

07年に訪問した際には、家賃が支払えなくなったため工房は事務室を残して規模縮小、制作は各自が自宅で分担していた。今回訪れると、新たに小さな作業スペースが確保されていた。

現在ナターシャさんは、ピンスクで警備員の仕事をして暮らしている。月給は200ドルで生活は楽ではない。ゴメリへは2週間に1度帰る程度。スタッフには難しいニス塗り作業などは、ナターシャさんが時間を見つけて手伝っているとのこと。

08年7月までのぞみ21で働いていたオレイシャ・アレイチクさんとイーゴリさん夫婦(今号表紙)を訪問し、生活の様子などをインタビューした。

事前に注文した雑貨の商品確認と支払い、運営支援カンパを届けることができた。

## リューダ、大使館など

ベラルーシ側で活動の事務サポートをしてくれているリュドミラ・ウクラインカ(愛称リューダ)と打合せと取材をした。娘のアンナちゃんも随分大きくなっていった。



15歳の時に甲状腺摘出手術を受けたリューダだが、しばらく前の検診でリンパ節が腫れているので定期的な検診を医師から勧められたそう。良い医師を紹介してほしいとのことで、ピンスクの信頼できる医療機関を紹介した。



また今回、日本大使館へ松野大使に表敬訪問と活動報告をした。活動の資金面での厳しさと共に、これまでの取り組みの成果と今後の展望について説明。

大使館には、現地NGOや現地機関が申請するODA(政府開発援助)があるが、プレストの医療機関が、「甲状腺ホルモン自動分析器」等、現地における一貫した検診システムを充実させるプログラムを申請しようとしている。支援後のフォローアップを担当する形で、連携を模索中である。

## NGO「コンフィデンス」訪問



2001年から支援を続けている現地NGO「コンフィデンス」(=信頼)を訪問し、支援カンパを届け、活動についての報告を受けた。

コンフィデンスは、活動の一つとしてヨーロッパへの子ども達の海外保養を行っている。夏の休みを利用して2ヶ月くらい、主としてゴメリ・モギリヨフ等から海外保養に行くケースが多い。今後も続けていくが、物価高騰が悩みの種とのこと。

ピンスク・ライオンズクラブに加盟し、こちらも利用して子どもの支援をしているが、日本のライオンズクラブとの交流が出来ないだろうかとの相談を受けた。ライオンズクラブには大きなスポンサーがいて、スイスのデザイン会社社長が一度にグループの子ども達の滞在費を出してくれた事があるそう。どなたか情報があればぜひご提供願います。

チェルノブイリ医療支援ネットワークでは、コンフィデンスの子ども向け健康啓発プロジェクトを支援している。活動の様子などをホームページに掲載できるよう現在準備中なので楽しみに。

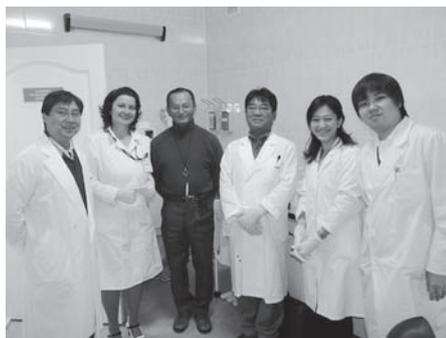
無事に全患者の細胞診が終了

## ブレストでの甲状腺ガン検診に参加して

日本医科大学付属病院病理部

村瀬

幸宏



(上)今回検診に参加した日本医科大学のメンバー。右から3番目が村瀬検査技師。  
(左)細胞診のために染色をする村瀬検査技師。試薬やプレパラートなど消耗品や機材などが日本から安定的に届けられるようになり、病院の医療環境は、飛躍的に改善された。



今回私は、10月5日から13日の計9日間、ベラルーシ共和国ブレスト市での甲状腺癌検診に参加しました。私自身、3年ぶりの参加でした。

10月のベラルーシは、日本より気温は低かったのですが、天気も良く暑がりの私にとってはちょうど良い気候で、街も紅葉をむかえ大変きれいでした。前回は街並みをゆつくり観察する余裕もなく終わってしまいました。2回目のためかいろいろと観察することができました。

物価もマトリョーシカ人形など3年前に比べると2倍になり、また高層ビルやマンションなども建設され成長している国だと感じました。前回は入国の際税関で2時間以上待たされ、正直ベラルーシという国に不安感がありました。今回は待たされることなく入国でき、この綺麗な街並みを見ると何故だかベラルーシに対する不安感がなくなりました。

今回の検診は、診療所より病院へと場所を変え行われました。最初は戸惑いましたがどうか全ての標本を仮診断することができました。検診結果は以下になりました。

受診者53名のうち穿刺吸引細胞診は52名行われ、内訳は検体不適合はなく、class II (良性変化) 33名、class III (良性・悪性鑑別困難) 12名、class IV (悪性の疑い) 3名、class V (悪性) 4名でありました。class V (悪性)の中には、甲状腺癌のみならず他臓器からのリンパ節転移などもあり、また至急の検体も2件ありました。現地の要望に応えることができ私自身たいへん満足をしています。

今回の穿刺吸引細胞診は、アルツール医師

ではなく、マリナ医師が行いました。しかし、検体不適合は一件もなく穿刺技術が一流であることがわかりました。一流の穿刺技術が次の世代に伝わることは大変良いことだと思います。

我々は細胞が採取され初めて診断出来ず。細胞が少なかったり、採取されない場合は鏡検時にストレスを感じ良い診断は出来ません。無事終了出来たのも良い標本であったからだと思います。

また、病院の病理検査室、手術室など普段ではなかなか見ることの出来ない場所を見学できたのは勉強になりました。

07年、日本医科大学で手術を受けたアリョーシヤさんも参加されました。術後の経過も良好であり、この検診が有意義であったことを再確認しました。帰りにはピンスクの自宅まで招待され、ご家族の皆様にご会い、皆さんの料理でのおもてなしをうけました。

このように、ブレストでの検診は大変有意義であると思われまます。私も微力ながら今後も協力していきたいと思えます。機会があれば参加したいと思えます。

検診に先立ちいろいろとアドバイスをしていただいた、ブレスト検診のベテランで、職場の上司でもある渡會泰彦さんには感謝しております。また、今回の検診団のメンバーである日本医科大学の清水二雄先生、篠塚恵理子先生、医学部の大内崇弘さん、広島市の武市宣雄先生、野宗義博先生と同行できたことは細胞検査士の私にとっても大変良い勉強になりました。

最後に、山田英雄さん(医療通訳・コーディネーター)、山口英文さん(チエルノブイリ医療支援ネットワーク理事)は、検診業務を円滑にするだけでなく、現地での生活に関する細かい心遣いを頂き大変ありがとうございました。心よりお礼を申し上げます。

# 被災地での検診に参加して感じたもの 研修医と学生の視点から

エコー検診を手伝う篠塚医師(中央と大内さん(右))  
清水医師(左)とアルツール医師(奥)が様子を見守る。



## チェルノブイリは遠い話ではなく 今を生きる人たちの日常

日本医科大学付属病院研修医

篠塚 恵理子



今年の10月5日から9日間、プレストでの検診団に参加させていただきました。大学で、清水先生から「参加してみる？」と声をかけていただき、是非！とお願ひしましたの参加となりました。

私にとつては、ベラルーシという国名自体が普段耳にすることのないもので、ロシアよりヨーロッパ側ということとはわかるけれど、地図の上でどこかといわれたら正確には示せない国。どんなところかイメージもありませんのでの出発でした。

モスクワ経由でミンスクへ、それからプレストへ移動。目的地に着くまで3日かかって、4日目からやっと検診開始。検診を受けに来た人たちが次々と部屋へ入ってきて、診察をうけ、穿刺してもらって帰っていく。日本と違って、診察室の中は堅苦しくない雰囲気ではないと思うものの、まだ前の人がいるうちに次の人がはいつてきてしまったりする、そのスピードの速さにはちょっと驚いてしまいました。

検診初日・2日目と、私は診察やエコーの結果、穿

ここ数年のベラルーシ訪問では、研修医や医学生など、若い人たちもボランティアで同行しています。日本とは異なる医療の現場を目の当たりにし、大きな驚きや新たな発見があったり、参加者それぞれが色々なことを吸収しています。今回のプレスト市での検診に参加した篠塚先生と大内さんに、感想を寄せていただきました。

刺部位などを用紙に記録することを担当させていただきました。2日目の空き時間にはエコーの練習。マリリーナ先生には細かく指導までしていただいて、3日目はほとんどのエコーを担当させてもらうことができました。日本で働いていても、一日でこんなに何度もエコーをやることはなく、私にとって貴重な二日となりました。

検診の時間以外ではウラジミール先生にプレストの歴史の話や聞いたり、アルツール先生から普段の検診の話や聞いたりすることもできました。

とくにアルツール先生から聞いた事故の話、その後の話は初めて聞くことばかりでした。私にとつてチェルノブイリの事故は遠い国の話でしたが、検診に来た人たちはもちろん、この国の人たちにとっては遠いところではなく暮らしているところの話。そう思うと、今まで事故の話や被害の話や聞いても、そこに多くの人たちの生活があるということまで気に留めていなかったと気付かされました。

今回、海外での検診・医療支援とわずかながらに異なることができ、普段とは違った環境での医療をみることもできて、参加させてくださったことに大変感謝しております。9日間縮だった先生方、山田さん、山口さんとも様々な分野のお話をするのができ、面白く過ごしたことも良い思い出となりました。

ありがとうございました。

## 見えないものと語学

日本医科大学4年

大内 崇弘



チエルノブイリ原発事故が起きたのは今から22年も前の1986年のことです。その当時私は4歳でした。当時のことで私が現在も覚えていることは父に言われた「ヨーロッパの食べ物は（放射能汚染されているから）食べてはいけない」という言葉です。いつ言われたかは定かではないし、父のその言葉に科学的な根拠があったのかも正直なところわかりません。ただ、食べてはいけないものがあるという事実から、幼い私にもチエルノブイリ原発事故の大きさだけは理解できました。それ以来、ふとしたときにチエルノブイリ事故というものを思い出しては、インターネットや本などで当時のことを見て、知識が自然と増えていったように思います。

日本医科大学に入学してしばらくたった頃、清水先生がチエルノブイリ医療支援ネットワークの行っているベラルーシでの検診に毎年参加して、チエルノブイリ原発事



甲状腺細胞の染色を手伝う大内さん

故のせいで甲状腺疾患に苦しむ人々を救う活動を行っており、また清水先生が希望する学生を連れて行っていることも知りました。

大学に入学した頃からチエルノブイリ事故にずっと興味をもっていた私の中で、チエルノブイリ事故の影響の現状を知りたいという思いが強くなっていき、またこの機会を逃したら見に行くことはできないと考え、清水先生にお願いして、今回参加させていただけることになりました。私自身としては念願が叶うという喜びと共に、今回の検診団参加を通じて、海外の医療の実態を自分の眼で見ることに、また将来医師になったときに自分の興味を仕事につなげる方法を模索したいと考えて出発しました。

今年には毎年の検診より時期が早かったこともあり、ミンスタに早朝着いてみると話に聞いていたよりは寒くなく、ちょうど紅葉がきれいな時期でした。放射能が見えないものであり、既に事故から22年経つていてチエルノブイリから500キロ以上離れているわけですから、冷静に考えてみればそこが辺り一面きれいな紅葉で当たり前のはずです。しかし、そのあまりにもきれいな風景を見て、いったいどこに放射能汚染された過去があるのかと眼を疑い、その実情を検診で確かめてみたいと思いました。

その後のブレスト州立内分泌診療所では3日間で53人の患者さんを診ることにになりました。その中には4人の悪性腫瘍の患者さんがおり、日本では考えられないくらいの高確率で発見されたことに、きれいな風景の中に潜む見えない放射能の恐ろしさを感じました。

ブレスト州立内分泌診療所での現地の医師とのやりとりは通訳の山田さんや山口さんが近くにいらつしやるときはロシア語の通訳を頼むのですが、席を外されているときは英語で直接話しました。彼らの中には英語が堪能な医師もいればそうでない方もいらつしやいま

た。英語の苦手な方とはなんとか話そうと試みてもなかなか意思疎通ができません。そんなとき我々の間を繋いでくれたのは医学の専門用語でした。私が知っている英語の専門用語と、彼らが知っているロシア語の専門用語の語源が一緒であったことから、ある専門用語の発音が英語とロシア語で極めて似ており、その用語がきっかけでどんな病気に関する内容で現在どんな状況なのか理解することができたのです。

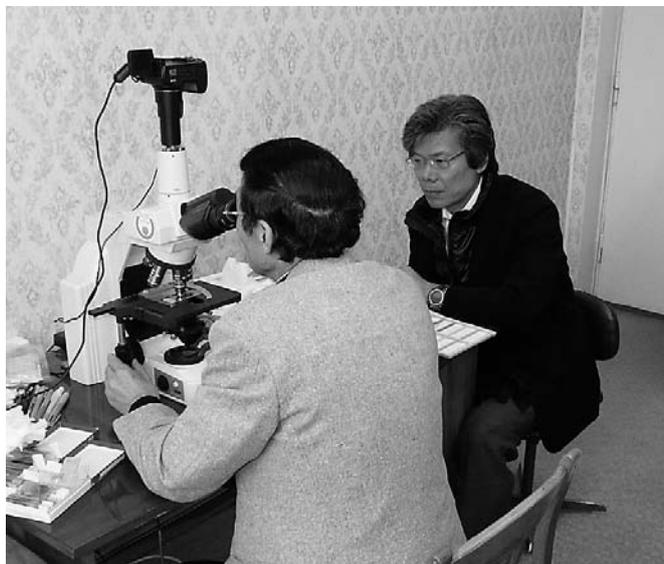
そこで私が感じたのは英語での診察に使う会話の重要性はもちろんのこと、加えて専門用語の重要性でした。たとえ英語が通じない環境に行っても英語の専門用語を知っていることが現地の医療スタッフとのコミュニケーションに役立つ。そのことを知ることでできたのは大きな収穫でした。

今回、チエルノブイリ医療支援ネットワークが行っているベラルーシでの検診に参加して強く感じたものは、見えないものの大きさです。こんなにきれいな大地に潜んでいる見えない放射能が22年経った今も人々の身体を蝕んでいる。この恐ろしさは行ってみたいと決して理解できなかつたと思います。

また、英語の重要性を再認識しました。ロシア語が流暢に話せるようになるにこしたことはないですが、まずは英語をもっとしっかりしたものにしていきたい。診察に使う会話だけでなく、医学の専門家になる者として専門用語も含めて。それが英語が通じない環境で役に立つと、今回ベラルーシに行つて強く感じました。

まだまだ、医学生ですし新しく学ばなければならぬことが多くありますが、今回私は今後医師になる上でまた医師になつてからも大切な語学の重要性や、人間の犯した過ちの大きさを学んだように思います。またいつ、か今度はロシア語と英語をもっと話せるようになつて、ベラルーシを訪れたいです。

# 済生会広島病院 野宗義博医師からの報告 被災地での乳ガン検診、まずは第一歩前進へ



武市医師のプレパラート撮影と診断を手伝う野宗医師(右)

今回の検診では、甲状腺にも関わりの深い乳ガン検診の実施も目標の一つとしていました。また同時に、過去10年間の検診結果の最終確認のため、武市医師が中心となり、数百枚のプレパラートをすべて顕微鏡で確認することも重要な目的でした。

これまでの検診とは異なる、この2つの大切な仕事を担っていたため、済生会広島病院より、野宗義博医師にご協力いただきました。

野宗先生より、二度目の訪問となった今回の検診の様子をご報告いただきます。



プレスト州立病院の、診察室案内表示の前で、野宗医師とアルツール医師。

済生会広島病院 野宗 義博

第8回目のベラルーシ・プレスト被曝者医療検診に参加したので、その報告をする。

今回、広島からは武市クリニック院長・武市先生とロシア医学通訳の山田さんが参加した。また、東京班からも、日本医科大学教授の清水先生、村瀬検査技師、内科研修医の篠塚さんと学生の大内君の4名が参加した。

今回ベラルーシ被曝者検診の目的は

- ① 甲状腺診断 (超音波検査と穿刺吸引細胞診、染色、顕微鏡的診断)
- ② 病理標本の顕微鏡撮影 (1997年からの病理標本撮影)
- ③ 乳ガン検診の説明 (プレスト州悪性腫瘍病院医療チームへの乳ガン検診提示)であった。

私にとつては、今回は昨年引き続き2度目で、乳ガン検診の導入が主な役割であった。また、武市先生の病理組織検査のため、多数の病理組織切片(プレパラート)の顕微鏡写真撮影の助手を行った。今回の検診班には、チェルノブイリ医療支援ネットワークの山口さんがロシア語通訳として、また、山田さんがコーディネーター・医療通訳として参加された。

■10月4日(土)  
深夜、広島班の3名は成田空港エアポートホテルに集合。

■10月5日(日)  
今回は病理用のプレパラートを運搬する必要が無く、身軽に空港に移動できた。出国ロビーで、東京班や山口さんと合流し、モスクワに着。

■10月6日(月)  
昼前にミンスクに到着。

ベラルーシ赤十字(ベラ赤)の準備した「雪だるま2号」ともう1台のワゴン車で、直ちにベラ赤本部を訪問。総裁に今回の医療支援活動の内容を報告し、持参した支援用の基金を提供した。今回総裁から、ベラルーシ国内でも近年乳ガン患者が増大している問題を知らされた。

ミンスク市内は、木々の葉はほとんど黄色く染まり、通りには落葉も多く、既に晩秋の季節であった。気候は日本の初冬と同じくらいで、朝夕の温度は10度以下と寒いが、日中は日本と同じ気候で過ごしやすかった。日の出は7時過ぎ、また、日没は7時頃であった。住民の多くは長袖やオーバーなどを着用しており、既に冬の準備をしていた。

今回の私の医療支援活動は、以下の通りだった。

(1) プレスト州悪性腫瘍病院内分泌診療所での、乳ガン検診の講義。

日本での乳ガンの現状と、乳ガン検診の必要性をパソコンで紹介。また、患者さん配布用の絵入り乳ガン自己検診のパンフレット50枚を提供した。

(2) プレスト州悪性腫瘍病院内分泌診療所での病理標本顕微鏡写真撮影(武市先生)の助手。

# 日本から届いた顕微鏡で 過去の全プレパラートの 診断結果を確認、記録。 乳ガン検診実施は、 次なるステップへ。

患者毎のプレパレート準備と顕微鏡デジタル写真撮影のセットアップを行った。また、武市先生の顕微鏡所見の記入も一部手伝った。

■10月7日(火)  
ミンスクから南南西、約330kmのプレストに、2台のワゴン車で移動。

昼過ぎに、プレスト州悪性腫瘍病院の内分秘診療所に到着。東京班は、明日からの甲状腺検診準備、病理標本染色準備を行った。我々広島班は、保管していた多数の患者用病理組織標本(プレパレート)を受け取り、ちなみに、病理組織標本のプレパレートとは、チューインガムを大きくした程度の板状のガラスである。病理診断するために、組織の一部をこのガ



野宗医師より乳ガンの講習を受けるプレスト州の専門医(上)。日本で知られる自己検診法の広報ツールや、実際のX線写真なども使い、現地の乳ガンを取り巻く状況と比較しつつ講義を行った(下)。

ラス板に塗沫して、そして染色。1枚1枚のプレパレートを、顕微鏡で観察して細胞の形で診断する。今までの甲状腺検診で、多数のプレパレートが作製されたが、日本への持出しが禁じられており、一部のプレパレートは、病理診断が不完全であった。

受取したプレパレートは、バラバラの状態では紙箱に入れてあった。検診採取した年月日と場所、また、患者認識番号がバラバラの状態であった。顕微鏡検査の前に、これらの順不同のプレパレートの並びかえ、整理、分別作業が必要であった。また、一部の標本はミンスクで保管されていたため、翌日にプレストに届くようアルツール医師に依頼した。

なお、今回修理持参したNikonのデジタルカメラを顕微鏡にセット。撮影できるかどうか確認。カメラのリモコンシャッターの電池を替えて、撮影可能となった。

■10月8日(水)〜9日(木)  
丸2日間、標本(プレパレート)の整理。

■10月10日(金)  
午前中から、顕微鏡診断を開始。作業は、まず顕微鏡でプレパレート全体を観察、異常の部位を見つけ、病理診断し、その結果をノートに記録、最後にデジタル撮影を行った。1枚のプレパレートを処理する時間は約7〜8分を要した。今回Nikonのカメラは順調に機能したが、古い病理標本(プレパレート)の多くは、保存状態が悪かった。

午後から、アルツール診療所長室でパソコンを使つての乳ガンセミナーを開始。日本の乳ガンの現状、検診の方

法、自己検診法を中心に解説。次回からの乳ガン検診の基礎的事項をベラルーシの医師達に説明しておいた。乳ガン検診もできる最新型の超音波装置はこちらの病院にあった。あとは乳腺のエックス線撮影(マンモグラフィ)が出来れば、乳ガン検診可能であった。

■10月11日(土) 検診最終日  
この日病院は土曜で休日。広島班は、午前中何か研究室を開けてもらつて、最終プレパレートの撮影を行った。一方、東京班は昨日で検診を終了。我々とは別行動で、車でアリオシヤさん(07年に日本で清水教授により甲状腺手術を受け、今回術後検診目的でプレストに滞在)を郷里のピンスクまで送つて行った。

我々広島班は、昼過ぎまで顕微鏡写真撮影を行った。なお、撮影できなかったプレパレートも含めて、年代別、地域別に仕分けして、こちらの病院に保管。ウラジミール医師から、今回撮影したデジタル写真画像のすべてを手渡すように依頼されたので、全画像約400枚をDVDにコピーし、手渡しておいた。

午後3時半、ミンスクに向かつて移動。午後7時過ぎにミンスクのホテルに到着。ミンスクでは、ベラルーシ医学再教育アカデミーのオルガ医師の自宅を訪問。彼女は07年に広島で甲状腺の研修をされており、息子さん(医学部2年生)同様、かなりの親日派であった。

■10月12日(日)  
ロシア語通訳の山田さん、山口さんはさらにゴメリ訪問のため、ミンスクに残留。我々は東京班とともにモスクワ経由し、翌日成田に無事到着し、今回の医療支援を終了した。

追悼 ステパンさん

# のぞみ21との 交流を通して

チエルノブイリ医療支援  
ネットワーク理事・小学校教諭 小山 浩一



商品を仕上げるのぞみ21スタッフ

■のぞみ21との交流  
チエルノブイリ医療支援ネットワークの活動の中には、とっても楽しいものがあります。例えば「ベラルーシ料理教室」。ゴメリ市の工房「のぞみ21」のナターシャさんのレシピで、参加者みんなで一生涯命作ります。そして、のぞみ21の作品をお手本に、無地のマトリョーシカ人形に思い思いの絵を描く「マトリョーシカ絵付け会」や、クロスステッチで民族模様を描く「ベラルーシ刺繍教室」。

医療支援だけでなく、こんな活動を通して、ベラルーシの文化やナターシャさんたちのあたたかさに触れることができます。雑貨購入を通じた活動支援というパートナー団体であると同時に、「のぞみ21」はチエルノブイリ医療支援ネットワークにとって大きな大きな存在です。

■のぞみ21のこれまで  
一方で「のぞみ21」は悲しく、つらく、厳しい経験を積み重ねてきています。工房を始めたきっかけは、ナターシャとステパン夫妻の長男、オレグが10代で白血病にかかり、治療を終えて退院した後

に待っていた、社会的孤立でした。

被曝者差別を経験し、自分の体調に合わせしか働くことのできない経験を通して、オレグと夫妻は、被災した元患者や障がいを持つ若い世代のために、交流と経済的自立の場を作ろうと、1995年に工房「のぞみ21」を始めました。ところが1998年、オレグは甲状腺ガンが肺に転移し、肺ガンのために、20歳の若さで命を落とします。気を落としたのは、共にがんばってきた若い仲間たちだったと聞きました。夫妻はその後も運営を続け、知り合いの紹介で、2000年、日本のNGOと出会いました。それが、私たちとの最初の出会いでした。以来、工房運営の支援だけでなく、雑貨の仕入れと日本での紹介を通して、工房を支えてきました。チエルノブイリ事故15年目のキャンペーンの際には、ナターシャ、ステパン夫妻が来日し、日本各地を回りました。

2004年、私が初めてベラルーシへ行った時に、二人と、その長女ニーナさんにも会いました。しかしそれから半年後の2005年2月、ニーナさんは胃ガンの

ため、一人娘のナターリヤちゃんを残して世を去りました。さらに2008年8月には、前号でもお知らせしたように、ナターシャさんの夫であり、「のぞみ21」を共に支えてきた最愛のパートナーであるステパンさんを、不慮の事故で亡くされました。チエルノブイリの中にある一族に降りかかる哀しい別れに言葉を失い、ただ一緒に深い悲しみを受け止めるほかできません。

■日本の小学校との交流へ向けて  
2005年に調査団スタッフとして訪問した時は、娘のニーナさんを亡くして間がない頃で、ナターシャさんご夫妻と共につらい涙を流しました。お二人が引き取った孫のナターリヤちゃんも、精神的に不安定な様子が見て取れました。何とか彼女を励ますことはできないか。帰国してすぐに、前任校である中津江小学校（大分県日田市）で担任していた3年生の子どもたち15人に伝えると、みんながナターリヤちゃんを励まそうと、たよりを書くことになりました。アニメのキャラクターなどを描いて、かんたんな励ましの言葉を添えただけでしたが、その次の検診団に託し、ナターリヤちゃんへ届けてもらいました。するとナターリヤちゃんからもかわいらしい絵が届き、中津江の子どもたちも大喜びでした。

中津江の地域行事では、「のぞみ21」の雑貨を売るコーナーを設置させてもらい、子どもたちも一緒に手伝ってくれ、たくさんのお金を集めることができました。また、この子どもたちは、水俣市の「ほつとはうす」の人々（胎児性水俣

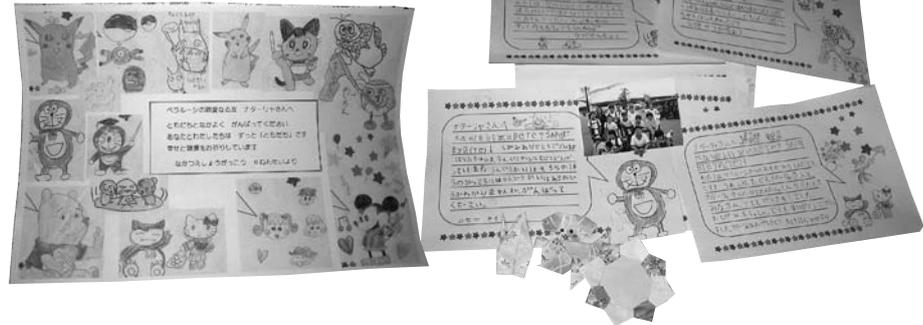
ゴメリの写真集を手に、故・ステパンさん(左)とナターシャさん(右) 下は、日本の子どもたちからの手紙に喜ぶ、ナターリヤちゃん



病患者のみなさん)を学校に招いての交流も行い、チエルノブイリや水俣を通して、たくさんの「いのち」の学習を行いました。

次の年に日田市内の学校(現勤務校)に異動し、この子どもたちにもチエルノブイリや「のぞみ21」のことを伝え、ナターリヤちゃんへの励ましのたよ

中津江小の子どもたちからペラルーシへ送られたみんなの手形や絵手紙、写真、折り紙など



りも書き、返事をもらうことができました。こうして、「のぞみ21」と日田の子どもたちが交流を深めていきました。

### ■中津江からの手紙 再び

そんな中、2007年の調査団が、ナターリヤちゃんと、彼女が通っている学校のクラスからのたよりや写真、クラスみんなの手形などを私のところへ届けてくれました。

汚染地であるゴメリ市での生活は幼い子にとつて危険だとの判断から、現在、ナターリヤちゃんはナターシヤさんと一緒に、首都ミンスクで暮らしています。そのミンスクの小学校からの交流の希望のたよりです。夢のような話に、すぐにでも実現したいところでしたが、残念ながら今の学校で、彼女にたよりを書いた子どもたちは卒業してしまい、今年度はなかなか取り組めません。

せっかくの申し出をなんとかしたい思いで、前任校、中津江小学校へ連絡しました。熱心な担任の



ナターリヤちゃんからの返事の手紙

T先生が協力してくれることになり、ナターリヤちゃんからの品物を預かってくれました。

9月23日、中津江小の運動会。子どもたちの様子を見に行くと、6年生として、全校を引っぱってくれているたくましいあの子たちの姿がありました。そして、ナターリヤちゃんのことを聞くと、「もうぼくたち手紙書いたよ。」と言うではありませんか。1学期から2学期と、運動会練習中の大忙しの中で、しっかりと取り組んでくれたのです。

まもなく、T先生が中津江小からペラルーシへ送るたよりを持って来てくれました。彼は、6年生の取り組みだけで終わらせず、全校へも呼びかけてくれました。ミンスクの学校から届いた物の中に、ナターリヤのクラスメイト全員の手形があったので、そのお返しに中津江

小の全校の子どもたちの手形を一枚の紙にとつてくれたのです。そして中津江小の様々な活動の様子が写った写真もたくさん。もちろん6年生たちが見よう見まねのロシア語や日本語で書いた手紙もありました。

### ■子どもたちとともに

今回の調査団が、熱い思いのこもったたよりを、ペラルーシへ届けてくれました。「あなたたちのことを思っている子どもたちが、日本にいますよ。これからもがんばって下さい。応援しています。」そんな思いがきくと伝わったことだろうと思います。言葉の壁があつて、どのくらいのことかこれからできるのかわかりませんが、ロシア語の得意な山田英雄さんや山口英文さんの協力も得ながら、今後子どもたちをつないで行きたいと思っています。現在、2年生になったナターリヤちゃんや彼女のクラスメイトとの交流の実現をご期待下さい。

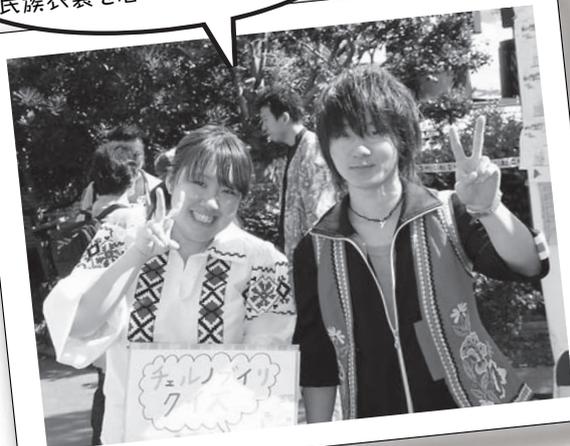
小さな子どもたちが、子どもたちへの支援をしてきています。「のぞみ21」のみなさんが、これからも未来への望みをもって活動を続けていけるように、みなさんと共に大きな支援を届けたいからと思います。日本から少しでも多くの雑貨の注文が届くことをナターシヤさんたち、「のぞみ21」のみなさんは待っています。

そして最後に、ミンスクで、警備員の仕事をしながら「のぞみ21」の運営も続けているナターシヤさんの健康と、家族を亡くされた悲しみが癒されることを願わずにはいられません。

「インターン」とは、勉強中の学生が、社会で働くとはどういうことかを知るための、短期の職場体験です。チェルノブイリ医療支援ネットワークでは、2005年より福岡教育大学（宗像市）からインターンを受け入れています。同大から6人目となる悠ちゃんの、10日間のインターンレポートをどうぞ。

## インターンさん、いらっしや〜い! 学生インターン報告

10月の地球市民どんたくにて。  
他団体のインターン生と一緒に  
民族衣装を着て活動PR♪



子ども向けに作った  
チェルノブイリクイズ。  
分かりやすいと大好評!



こんにちは。私は福岡教育大学教育学部  
共生社会教育課程 国際共生教育コース  
3年の北村悠きたむらゆうです。10月6日から10日間、  
インターン生としてこのチェルノブイリ医療支  
援ネットワークでお世話になりました。もし  
てまだまだ学びたい、自分が出来ることをし  
たい、と思い、ボランティアとして今も微力  
ながら協力させていただいております。  
ここでの10日間は大学で学んできた3年間  
より濃いものだったと言っても過言ではないく  
らいでした。  
私は将来、国際協力に関わる仕事に就き  
たいと考えています。とはいうものの、実際  
行動に移してはいませんでした。教育系の仕  
事に就くことも迷っていました。そのため  
毎日授業、塾の講師のバイト、部活と漠然  
と過ごしていました。ただその中で、オース  
トラリアに留学したことにより、やはり世界  
に目を向けたという気持ちは強まったので  
す。それ位の気持ちで3年になり、就職活  
動を始めなければならぬと考え始めていた  
とき、実際に働いてみれば前に進めるかもし  
れない、インターンに参加してみよう、と考  
えたのが始まりでした。  
しかし、実際に働かせていただき、はつき  
りと国際協力がしたいと決心したのです。  
チェルノブイリ原発事故について少しは知っ  
ていたつもりでしたが、私の生まれる前の事  
件だということもあり、実際には知らないこ  
とばかりでした。インターン開始前にいくつ  
か文献で調べて行ったのですが、実際の話を

### ●●● 事務局より ●●●

2週間のインターン、本当にお疲れさまでした。短い期間でしたが、色々ありがとうございました!その明るい人柄と大きな声がステキで、こちら元気をもらうことができました。事務作業もイベントでも、取り組む姿勢が積極的で、私たちスタッフもとても勉強になりました。これからボランティアで来て下さるとのこと、頼りにしています。よろしくお願ひします!なお、事務局では常時インターンを募集しています。NGOの現場で経験を積んでみませんか?お待ちしております!(み)

聞くのとは全く現実味も、得られる知識も比べものになりません。毎日が新発見で楽しい(という)と語弊があるような気がしますが、全く苦のない、学生に戻りたくないような気持ちでした。  
そんな充実感の他にも、私に刺激を与えてくれる存在を得ることができました。この短期間で出会った人みんながそうです。私の周りには国際協力について深く語れる人はほとんど居ません。しかし、他のNGO団体の方々はもちろん、イベントに来てくださったお客様などみんながそれぞれの考えを持っていて、それについて語れたことはすごくプラスになりました。  
これから事務所の仕事や、イベントに積極的に参加し、自分の出来ることを一生懸命やっつけていこうと思います。皆さんもご協力の程、よろしくお願ひいたします。

# 事務局日誌より 主な活動報告

日々の活動の様子は、ホームページの「事務局スタッフブログ」でも紹介しています。インターネットを使われる方は、ぜひそちらも合わせてご覧下さい。<http://www.cher9.to/>



## ◆8月31日(日)「ちやり亭・夏の陣」にて活動報告



「ちやり亭」は「美味しく食べて、気軽に社会貢献」を合言葉に活動する3人のユニットで、会費の半分をカンパに充てるチャリティ食事が季節ごとに開催されています。おいしい食事をみんなで見ながら、社会で起こっている問題について知ることができる。そして、その問題に対していつの間にか自分も貢献できている…「ちやり亭」に参加してみて、社会活動に参加する方法に色んなかたちがあるなあと、改めて思いました。

## ◆9月27日(土)事務局おひろめ会



新しい事務所をぜひ多くの人に知っていただくとうと、ボランティアさんたちを中心におひろめ会を開催。お茶とお菓子を囲みながら、活動のことや現地の様子について、おしゃべりしながら交流しました。

ボランティアさんたちと交流♪

★今後、事務局オープンデイとして、奇数月第4土曜日の午後には交流サロンを開催する予定です。ちよと活動を知らりたい、事務局を見てみたいという方が集まれる、気軽に気さくな場です。ご参加をお待ちしています。

## ◆10月11日(土)～13日(月祝)地球市民どんたく2008



いらっしやいませ〜

福岡市役所前広場で行われた秋の恒例イベント「国際協力フェスタ・地球市民どんたく2008」に出展。ブースでは支援コーヒーもよく売れ、「おいしいー」という声を多くの方からいただきました。ディスプレイに苦労しました「のぞみ21」雑貨も大好評♪また今年には新たに「チエルノブイリ・クイズ」も作り、通りがかりの老若男女にクイズを出題。楽しみつつ活動をPRできました。これからも色々な方法で活動を伝えていきたいと思っす！

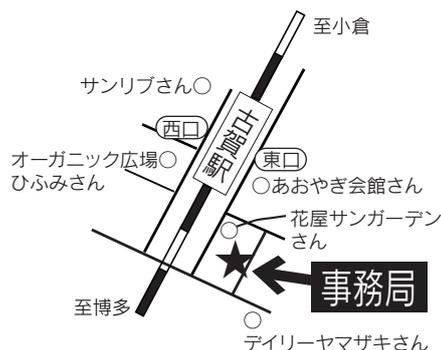
## ◆10月26日(日)ハートフルフェスタ福岡2008



ご来場ありがとうございました♪

こちらも秋の恒例イベント。博多リパレイン5階に設置された広めのブースをフル活用し、パネルや雑貨、チラシなどを設置。ご家族で会員さんが立ち寄って下さったり、チエルノブイリの現状について質問されたり、多くの方にお立ち寄りいただきました。あいにくの天気にも関わらず、屋外でのチャリティフリーマーケット会場にもたくさんの方が足を運んでくださり、多くの支援カンパを集めることができました。

## ボランティアさん募集



あなたのお暇な時間を、チエルノブイリ被災者のために当てて下さいませんか?事務局では、空いたお時間に、活動をお手伝いくださるボランティアさんを探しています。地道な仕事もありますが、どれも大切な支援です。ボランティア登録もあります。まずは一度ご連絡下さい。  
TEL/FAX 092-944-3841

## 次号掲載



5回目となったチャリティヘアサロン「スネガビーク」。11月3日に開催したこのイベントには、なんと過去最多の157名の方が来場下さいました。詳細は次号で報告予定です。どうぞお楽しみに!

## チャリティヘアサロンの大盛況のうちに終了

チェルノブイリ医療支援ネットワークの  
古賀市の新事務所をご紹介します♪

# 新事務所へようこそ!



いらっしやいませ〜♪案内役の  
マトリョーシカちゃんです。  
さあ、どうぞお入り下さい♪

2008年6月に移転した、新事務所内部をどーんと公開!

JR古賀駅より徒歩5分。チェルノブイリ関連書籍や通信バックナンバー、現地の写真などがあり、活動の様子を詳しく知ることができます。「のぞみ21」雑貨販売も行っています。

会員さんやボランティアさんが気軽に集まれる、そんなスペースにしたいと考えています。お近くにお越しの際は、ぜひ一度お立ち寄りください!



事務所はJR古賀駅より  
徒歩5分!電車が走っ  
ているの、見えますか?



「はい、チェルノブイリ医療支援  
ネットワークです!」会員さんや  
問合せの電話もよくかかります。



ここで作業してます!

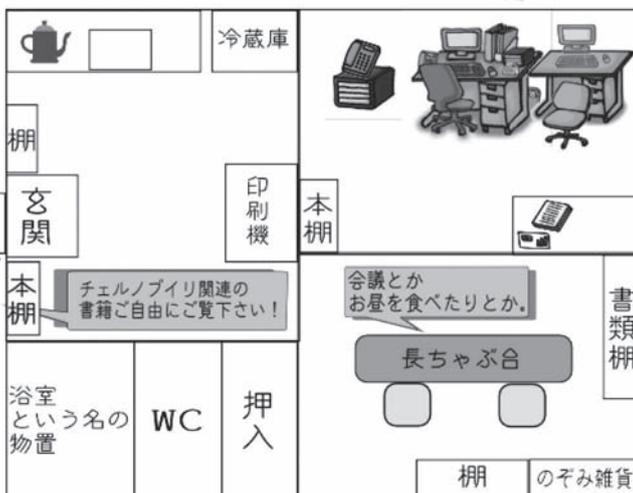


出勤したら、まずメール&  
留守電をチェック。

<JR古賀駅方面>

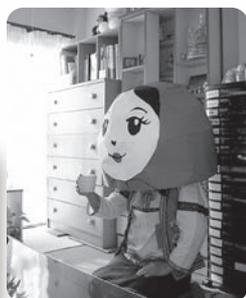


チェルノブイリ関連書籍は約110冊。  
貸し出しもしています♪



会報誌「チェルノブイリ  
通信」バックナンバーも  
置いています♪

「のぞみ21」  
手作り雑貨  
ご購入できます♪



ほっと一息。ふう。普段は、会議や作業、応接スペース  
として使っています♪



もちろん「のぞみ21」の  
雑貨もありますよー♪  
販売もしています。

## チェルノブイリ医療支援 ネットワーク事務局

〒811-3102  
福岡県古賀市駅東2-6-26  
パステル館203号  
TEL/FAX 092-944-3841  
e-mail jim@cher9.to  
月~土曜 10:00~18:00

お願い

イベント出店等のため、不在にすることもあります。おいで下さる際には、  
念のため事前に電話等でお知らせいただくと助かります。  
事務局ボランティアについては、詳しくは、P13をご覧ください。

私も応援しています!

# 会員さん 紹介コーナー

## Vol.3

このコーナーでは、チェルノブイリを支えて下さっている会員の皆さまより、医療支援活動への思いや現地へのメッセージをお聞かせいただきます。取材/寺嶋、三島

### 本日の会員さん

## 坂口 馨子さん

<北九州市若松区>

## 自分のできる範囲で、支え続けたい

チェルノブイリ医療支援ネットワークを知ったのは、2006年に、ブックレット『チェルノブイリの群像』が出版されたのを新聞で読んだのがきっかけでした。以前の事務所（遠賀郡水巻町）は、自宅から車で20分ほどのところだったので、何度か会報の発送作業や事務のボランティアをさせて頂きました。活動を通じて、たくさんの素晴らしい方々に出会えたことは、私の財産になりました。

チェルノブイリ支援コーヒー・紅茶もいつも美味しくいただいています。「食卓からチェルノブイリ支援を」というアイデアが素敵ですね。通信も毎号じっくり読ませていただいています。

子どもを持つ二人の親として、また世界唯一の被爆国民として、平和や核廃絶のテーマをどう子どもたちへつないでいくかという問いは、常に私の心のどこかにあつたような気がします。

団体の理事であり、小学校で教鞭を取られている小山さんが、「命」をテーマに授業をされ、水保病やチェルノブイリ原発事故の現場をまず自ら訪れ、教材研究をされ、可能な限り子どもたちと現地の人びととの交流をされていると

いうことを知りました。将来教員を目指す学生たちだが、小山さんのお話を直接聞くことができるならどんなに素晴らしいだろうと思ひ、母校福岡教育大学のかつての指導教官にご相談に伺ったところ、ご尽力いただき、2007年1月に小山さんの講演会が実現しました。

今の大学生たちは外に目が向いていない、と耳にします。けれども、小山さんによる講義を瑞々しい感性で受け止めた学生たちの反応を見て、私はそうではないと感じました。今の若い人たちも、知る機会さえあればちゃんと響くのだと。谷口雅子先生には、貴重な機会を作っていただき、心から感謝しています。

わずかではありますが、工房「のぞみ21」の支援も続けさせていただいています。前号の通信でステパンさんの計報を知り、ナターシャさんが今、どれほど深い悲しみと絶望の淵にあられるだろうかと思うと、言葉を失くします。知人に、やはり困難を抱える子ども達のため集まる場づくりをされていて、その途中で夫を病気で亡くされた方がいます。ナターシャさんのことがその知人と



腹話術人形のよしや君といっしょに。

重なり、他人事とはどうしても思えないのです。

ナターシャさんご一家をはじめ、被災された方の多くは、クリスチャンと拝察しますが、私もキリスト者です。ナターシャさんのご健康が守られますように。どうか彼女に、困難を乗り越えられる力が与えられますように。工房の大切な活動がこれからも継続できますように。朝に、夕に、切に祈らせていただいています。

実は、自身も体があまり丈夫ではないため、体力が許す範囲での小さなお手伝いしか、これからもできそうにありません。細く長く、お手伝いさせていただければと思つて、教会のバザーで、支援コーヒーとのぞみの雑貨を販売させていただいたり、娘の通う学校の先生方に、通信前号での石峯中学での授業の様子を伝えさせていただいたりしています。一人でも多くの方が、チェルノブイリ医療支援ネットワークの活動や、のぞみ21の尊い働きについて知って下さるようになり、祈りと支援を寄せていただけるよう、心よりお祈り致しております。(談)

## 09年度通常総会のご案内

2009年度通常総会を開催します。1年間の活動報告と来年度の計画を検討しますので、ぜひお気軽にご参加下さい。終了後は、楽しい懇親会も開催します。資料と軽食の準備のため事前にお知らせ下さい。

日時/2009年2月21日(土)

午後16時~18時

場所/チェルノブイリ医療支援ネットワーク

事務所(13頁地図参照)

内容/08年度事業報告・収支決算報告

および承認、09年度事業計画

・収支予算の承認 など

今だからこそ、子どもと一緒に読みたい  
作文集『わたしたちの涙で雪だるま  
が溶けた』子どもたちのチェルノブイリ』

時は二つに分けられる。

1986年4月26日の前  
と、その後。

(作文集より)



22年前に起きたチェルノブイリ事故は、子どもたちの目にどう映ったのでしょうか。被災経験やベラルーシの美しい自然や故郷への思いなど、子どもたちのまっすぐな言葉が胸を打ちまします。95年に出版して以来、全国で読まれ続けているロングセラーです。中学生でも読みやすいように、ルビと解説付き。

価格/1,300円(送料込み)

お申込み/事務局まで

## PRESENT

今号の感想や読んでみたい記事など、通信への感想をお寄せ下さい。お寄せいただいた方の中から抽選で3名様に、作文集『わたしたちの涙で雪だるまが溶けた』を差し上げます。今号の感想は2月末日締切。郵送がFAXにて。当選は発送をもって代えさせていただきます。

# たくさん募金をありがとうございました。

(8月～10月に募金下さった方々です。敬称略)

〔北海道〕 児玉佐喜子 〔東京都〕 金子幸夫 松本美智代  
山崎さおり 榎本みづ枝 マインドネットワーク 〔神奈川県〕 江口英頼・恭子 宮脇正 〔埼玉県〕 高柳俊哉 〔山梨県〕 キープ自然学校 キープ森のようちえん 〔長野県〕 岡田薫 〔静岡県〕 渋谷けい子 佐々木悦子 〔大阪府〕 植村仁美 堀江誠子 チェルノブイリ友の会伏見台菊池順子  
〔京都府〕 上野結 細川弘明 〔兵庫県〕 日野佳代子 米家ひとみ 〔鳥根県〕 高山幸子 吉井紀子 〔岡山県〕 武田麻希 〔広島県〕 松井由美子 脇坂幸江 中本治嘉子 山田英雄 〔山口県〕 菅根愛子 大谷正穂 山本美代子 林隆子 〔愛媛県〕 めぐみ保育園職員一同 〔福岡県〕 山崎末吉 首藤展子 秋葉靖子 深堀ミチ子 藤ノ原良子 川辺希和子 後藤尚子 稲田泉 中村幸枝 天賀京子 井手昌子 渡辺絹子 重住秀子 中村順子 サトウ矯正歯科クリニック 藪陽子 渡辺真志子 白水明代 福岡市NPO:ポランティア交流センター 森満子 関根敏子 渡邊裕美丸山千絵 吉村啓 伊藤まゆみ 稲吉清子 吉村千恵子 久保力三子 下川孝子 稲垣栄子 宇都宮裕子 吉竹佐智江 市来郁子 久野マサ子 野方勢子 ちやり亭 村上禮子 藤平理香 白石京子 上野三佳子 入江種文 西尾禮子 石井綾 下田豊文 池田阿里 山浦真弓 馬場登喜子 深田俊江 江口都世子 神田郁子 いのうえしんち 淀川良子 里見照子 チェルノブイリ友の会 筑豊互助会 亀井廣子 山本和弘 地球市民とんたく・ハートフルフェスタご来場の皆さん 〔佐賀県〕 庄籠道子 岸川美好 本利香 吉森康隆 古川恵子 〔長崎県〕 太田千賀子 塩塚秀代 井上喜久子 野中緑 高藤富美子 松井晴美 宮本美智子 〔熊本県〕 オヒロ山本枝美子 肇和代 坂本寿美代 後藤優子 原岡ひとみ 織田洋子 大辻恵美子 祝喜代子 緒方君江 山田美佐子 橋口日出夫 小出明美 添田恵 加藤照代 加藤タケ子 〔大分県〕 西胤和美 内田明子 谷口照代 河上しげみ 小野直子 小野すみ江 桜井美喜子 内幸美 関とみ子 大園広子 グリーンコープ生活協同組合おおいた ぼくあぼこ 澤田和子 〔宮崎県〕 長岡博子 細山田チカ 兼行恵子 〔鹿児島県〕 松永るり子 大倉加奈恵 森たよ子 馬場美保子 工房フワワ イズ・戸川みどり 安藤多鶴子 樋園光子 福本智子 江本り工 山田愛 福壽淑子 日高太 NPO法人じゃがいものおうち 〔沖縄県〕 浅井由美子

## 合計 5,029,096円

活動支援金	2008件	4,837,796円
のぞみ21カンパ	39件	143,800円
雪だるま3号カンパ	19件	47,500円

### ●マンスリーサポーターのみなさん(敬称略・順不同)

〔FEAR〕 青空・東海林由紀 上村匠子 富永隆史 大場丸山小より 永尾ゆかり 大原卓子 高山知佐子 山本亮輔 有未あけみ 川尻愛子 佐竹早苗 藤本孝子 片岡八重子 友景忍 村田聡子 斉藤美代子 三野桂子 神田有希子 大田百合 松尾智恵子 清水悦子 坂本ヒロ子 坂口馨子 森川キミエ 古賀輝洋 金山涼子 檜崎悦子 大崎知恵子 大久保伸子 村西美由紀 室屋芳乃 納富育代 福井初子 佐藤照子 中村洋子 平笠子 財津悠子 佐藤進一 藤江 永野沙智子 水本敬子 山中陽子 前田靖子 田中京子 廣松初美 武田孝子 河上雅夫 白浜千恵子 延壽富美 山本敬子 内野希和美 岩口香織 永江之子 石本祥二郎 竹田恵子 相川靖 土持秀男・由利子・朱加 菊池香秀美 磯道綾子 後藤宇企子 珍部千鳥 坪川裕子 稲田照子 計74名(匿名含む)

2008年8月1日～10月31日までに募金を下された方、ならびに「のぞみ21」雑貨、チェルノブイリ支援「ヒー・紅茶」の購入を通じて活動を支援して下さいました。通信にお名前を紹介することを許可いただいた方のみ掲載しています。

●株式会社カタログハウス様より、350万円の運営支援カンパをいただきました。心より御礼申し上げます。被災地を支える事務運営費として有効に活用させていただきます。

●会員さんからのご希望にお答えし、今号よりお名前を都道府県ごとに掲載させていただきます。

●「マンスリーサポーター」とは、毎月ご希望の額を口座から自動引き落としする形の支援です。継続的な寄付により、より安定した支援を被災者へと届けることができます。引き落とし金額は300円から、好きな時に開始・停止できます。簡単な手続きを説明した資料をお送り致しますので、事務局へお問合せ下さい。

通信前号で検診回派遣カンパをお願いしたところ、多くの方に協力いただきました。検診回派遣までに約80万円のご寄付が集まり、今年も無事に検診回を派遣することができました。ありがとうございました。

## 皆さんからのメッセージ(一部抜粋)

●皆様の愛の活動に応援しています。●息長く支援を続ける皆様には感謝です。寺嶋さんも理事長になられた世代が若くなりたのもしく思っています。●検診回派遣カンパの目標額達成を祈ります。●いつもお便り楽しみに読んでいます。ボランティアが必要な時お祈りして下さい。●秋の検診回派遣の成功を祈ります。●早く健康になり安穏な日々になりますように。●いつもおつかれ様です。●月日が過ぎ忘れがちですが、今も苦しめられている方々の少しでもお役に立ちたく思います。●チェルノブイリの事故の後も村に残った人々はどうしていられるのでしょうか。●みなさまに愛と光が降りそそぎますように！●支援に関わっている方々の御多幸をお祈りします。●ステップさんの計報に驚いています。ご冥福をお祈りいたします。●いつも自分の幸せをかみしめています。地球で起こる全ての人が災が失くなりように。●少しでも役立てていただけたらうれしいです。●みんなの優しさが形になりましたように、願っています。●これからもがんばって下さい。応援します。●わずかですが、協力させていただきます。●感謝します。●被害に苦しむ方が、少しでも減りますようお祈りしております。●私はこの活動を知り合いのお店で知りました。同じ世界にこんなに苦しんでいる人がいるなんて知りませんでした。こんな私1人の募金では、あまり変わらないかもしれませんが、1人でも多くの方々の命が助けられたいと思います。

### 「チェルノブイリ通信」が置いてあるところ(順不同)

▽財) 福岡国際交流協会・レインボープラザ▽財) 福岡県国際交流センター▽福岡市NPO:ボランティア交流センターあすみん▽特活) NGO福岡ネットワーク▽福岡YWCA▽財) 北九州国際交流協会▽北九州市民活動サポーターセンター▽KALASH(中間店)▽TENISEE▽ほつとはうす(熊本県水俣市)▽ポータルセンター(以上福岡県)▽ほつとはうす(熊本県水俣市)▽企業組合エネットみなまた(同上)▽あるがまま舎(大分県九重町)▽国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館▽日田市人権情報センター▽特活) 関西国際交流団体協議会▽キープ自然学校(山梨県北杜市)▽特活) 名古屋NPOセンター▽キープ自然学校(東京都文京区)▽ベラルーシの台所(東京都港区)▽順(東京都中央区)●NEW! 新規通信設置場所▽マイティカル(福岡県福岡市)▽企業組合ワーカーズみんと(福岡県古賀市)▽気まぐれや(福岡県嘉麻市)

### 後編 編集集

明けましておめでとございます。発行が遅れに遅れ、やっとのお届けです。2月は総会、3月末はアルツハイマー病予防定例行事が続きます。編集・企画・イラストボランティア常時募集中。本年も宜しくお願いします。(寺)